

昭和50年史

大正十五年十二月二十五日 大正天皇崩御により「昭和」と改元、五十年におよぶ昭和史はそこにはじまった。

不況・スト 時は前代未聞の不況のさなか、その暗い重苦しい時代を反映して、労働争議が絶えず、その後の日本の進路を暗示するかのようであった。

暗 殺 昭和の歴史の中で、暗殺・テロは決して例外的な事件ではなかった。昭和三十五年社会党浅沼委員長は、演説中、突然暴漢に刺殺され、暗い歴史はまたしてもくりかえされた。

人身売買 未曾有の経済恐慌と大凶作の間で、五万を超える東北の婦女子が家計を助け、飢えをしのぐために売られて行った。

侵 略 不況打開に苦慮する政府は、満洲事変・上海事変と日中戦争をより大きな戦争へと拡大させていった。暗黒の歴史をくりかえすかのように戦後日本の防衛力の拡大は、とどまるところを知らない。

前畑ガンバレ 暗い世相を救うかのような前畑の優勝、そのベルリン・オリンピックから36年、青木マユミは宿願の優勝を、ベルリン・オリンピックで果した。

軍事教練 軍国主義が大手をふるってまかり通る戦時体制の中「日本ヨイ国、キヨイ国。世界ニーツノ神ノ国」と修身の教科書はうたった。

終 戦 昭和二十年八月十五日、長かった戦争は終わった。

焼跡・闇市 一面の廃墟「僕の家族は、そこで飢え死した、そこで僕は大人を恨むことでしか生きていなかった」と作家野坂昭如氏は語る。

松川事件 敗戦による混乱の中で占領下の社会は、国鉄を舞台に奇怪な事件をもたらした。松川事件もその例外ではない。

赤バット・青バット まだ焼けあとの残る復興日本にあって赤バット・青バットの活躍は、国民の希望の灯でもあった。川上から長島へ、時代はうつり、アイドルはかわった。そして、その長島にも引退の時はめぐってきた。

高度成長 「もはや戦後ではない」池田内閣の所得倍増にはじまる高度成長政府に、日本は経済大国へと突走った。しかし、繁栄の陰で、公害は日本列島をおおいつくし、長すぎた佐藤政権は終り、「日本列島改造論」をひっさげて登場したは田中内閣も金脈問題でダウン。

不況にはじまりふたたび不況にみまわれようとして昭和五十年、三木政権の誕生は歴史をどうぬりかえてゆくだろうか。